

# セポ ・ レポ ・ ハイスクール Cepo Repo ・ HighSchool

第3号 (2020年9月 発信)

地域連携教育推進室員が県立高校等に赴き、各学校の地域連携教育の取組をレポートしていきます。このレポートのタイトルである「セポ・レポ・ハイスクール」の「セポ」は「地域連携教育推進室」を表す「Community Education Promotion Office」の、「レポ」は「Report」の略称です。

## 県立小野田高等学校の取組



学校図書館賞奨励賞賞納の様子



図書展示コーナー



校内教員研修でのビブリオバトルの様子

県立小野田高等学校が、地域と連携した学校図書館の活動が評価され、**全国学校図書館協議会が主催する第50回学校図書館奨励賞（実践の部）を受賞しました。**

注目！

注目！

小野田高校の学校運営協議会には、山陽小野田市立中央図書館の山本安彦館長が委員として参画しており、「めざす学校像」や「育てたい生徒像」をしっかりと共有したうえで、両者の連携・協働活動を行っています。県内高校において、図書館の館長さんが入っている小野田高校の学校運営協議会は、大変特色ある協議会です。

市立中央図書館との連携は平成25年度から始められたとのこと。市立中央図書館長と担当の司書、小野田高校の司書教諭の3名で適宜打ち合わせを行い、例えば、司書が小野田高校へ出向き出張図書展示を行う（取材時は「新型コロナウイルス感染症」がテーマの展示でした）等の連携・協働した取組を進めています。

ポイント！

注目すべきは、こうした地域との取組が教育課程の中に位置付けられているということです。具体的には、小野田高校では、「総合的な探究の時間」で取り組んでいるSDGsや地域探究活動において、市立中央図書館だけでなく、県立図書館とも連携した学校図書館を核とした探究学習を実施しています。さらに、探究活動で活用した本を紹介する「ビブリオバトル」の実施、LHRでの「全校読書会」の実施等、様々な教育活動が展開されています。このように小野田高校は、地域と連携した読書活動を、担当者や一部の先生だけが関わる取組とするのではなく、**教育課程に位置付けることで、全ての生徒、教職員が関**

ることができる取組にしています。夏季休業中の教員研修では、県立図書館の方を講師として招き、教員が授業で行う「ビブリオバトル」を実際に体験してみるなど、全校で取り組む体制を持続するための工夫もされていました。

注目！

今後、高校でも「社会に開かれた教育課程」の実現が求められます。子ども達に求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、学校と地域が連携・協働しながら、めざすべき学校教育を実現していきます。その際、地域連携は必須であり、学校運営協議会は、その実現に向けた有効なツールとなります。小野田高校の取組は、まさにコミュニティ・スクールの仕組みを生かして地域と連携し、「社会に開かれた教育課程」を実現していると言えるのではないのでしょうか。

ポイント！

### 山陽小野田市立中央図書館 山本安彦館長へのインタビュー



小野田高校土井校長と中央図書館山本館長



小野田高校生のおすすめの本コーナー



図書館フェスティバルでのコント

小野田高校の土井校長先生の御案内で、山陽小野田市立中央図書館の山本安彦館長さんをお尋ねし、お話を伺うことができました。

市立中央図書館では、小野田高校の生徒に、おすすめの本コーナーの設置やティーンズコーナーの選書、図書館フェスティバルでの活躍する機会の提供をしてくださっていました。

おすすめの本のコーナーでは、来館者の目を引くような掲示物について考えたり、選書では、同年代が興味をもってくれそうな本について協議をしたり、図書館フェスティバルでは、普段自習室に来ている運動部の生徒が、コントを披露したりと様々な力を発揮する場を提供していただいているようです。また、こうした取組は、生徒にだけプラスになっているのではないようです。実際に、高校生の視点で選ばれたティーンズコーナーの図書の貸出率は大変好調とのことでした。また、図書館で多様な世代が交流し、お互いに顔が見える関係になっていくことで、高校生が元気になり、地域の大人が元気になっていくとのことでした。まさに、生徒と図書館、地域が「三方よし」の関係になっているようです。

ポイント！

生徒の学びの先に、地域の元気がある。こうした「人づくりと地域づくりの好循環」が地域の中で様々な世代の人達が集まる図書館という場所で実践されていました。図書館と学校の連携・協働に地域連携教育の大きな可能性を感じました。

注目！

県立小野田高等学校の情報はこちらから→ <http://www.onoda-h.ysn21.jp/>

